平成28年度 こしき地域生産農家支援事業補助金

評価表 NO.

33

所管部課名	畜産課			担当者	久保 孝	志	
事務事業名	畜産経営安定支援事業費						
根拠法令	薩摩川内市農林水産部関係補助金等交付要綱、こしき地域生産農家支援事業補助金交付要領						
補助経過年数	1年以上5年以下						
平成28年度		国県支出金	一般財源		その他	[]	その他の内容
予算額	978 千円	千円	978	千円		千円	
		指標名		目標	値	目	標年度
成果指標①	繁殖用雌牛頭数(甑地域) 250頭 平成33年度					33年度	
成果指標②	子牛せり市平均価格 薩摩中央家畜市場平均 平成33年度						
補助対象者	甑島地域肉用牛振興会						
補助対象経費	優良雌牛導入事業、子牛せり市支援事業、子牛預かり施設航送料、						
補助対象事 業・活動の内 容							
	77,77	営補助のみ ■事業補		運営補助と事	事業補助の	両方	口その他
補助金額又は 補助率	 ・優良雌牛導入事業:1頭につき50,000円 ・子牛せり市支援事業:補助員5,900円×2/3 誘導員2,000円×2/3 ・子牛預かり施設航送料:実費相当額×1/2 						
上記項目の 積算方法							
	項目	平成25年度		成26年度			7年度

項目		平成25年度		平成26年	度	平成27年度		
	坦		金額(円)	割合 (%)	金額(円)	割合(%)	金額(円)	割合(%)
補	収入	自己資金	2, 658, 500	80. 9%	3, 127, 360	84. 2%	4, 266, 980	85. 7%
		会費収入		0. 0%		0. 0%		0. 0%
		事業収入	2, 658, 500	80. 9%	3, 127, 360	84. 2%	4, 266, 980	85. 7%
助 過を 去受		寄付金・その他助成		0. 0%		0. 0%		0. 0%
過を		市補助金	627, 500	19. 1%	588, 000	15. 8%	710, 000	14. 3%
去 党				0. 0%		0. 0%		0. 0%
3 け カる 生		(前年度繰越金)		0. 0%		0. 0%		0. 0%
		計	3, 286, 000	100. 0%	3, 715, 360		4, 976, 980	
年事の業		事業費	3, 286, 000	100. 0%	3, 715, 360	100. 0%	4, 976, 980	100. 0%
決算状況		人件費		0. 0%		0. 0%		0. 0%
		その他事務費		0. 0%		0. 0%		0. 0%
状体	支			0. 0%		0. 0%		0. 0%
1)L	出			0. 0%		0. 0%		0. 0%
等				0. 0%		0. 0%		0. 0%
の		(翌年度繰越金)		0. 0%		0. 0%		0. 0%
		計	3, 286, 000	100. 0%	3, 715, 360		4, 976, 980	
	支出計/前年度支出計				113. 1%			
自己資金/前年度自己資金				117. 6%				
翌年度繰越金/市補助金			0. 0%		0. 0%		0. 0%	
交付件数		3		3		3		
成果指標の推移①		198		182		175		
成果指標の推移②			479, 213		515, 146		594, 447	

特 【前回評価】平成25年度「見直しの上で継続(補助内容の改善)」海洋深層水で育った牛などブラン記 ド化の研究をして欲しい。

【前回評価への回答】こしき地域の肉用牛の生産過程を考えると、今の飼育状況では海洋深層水で育った牛としてブランド化するのは難しい。また、子牛価格が高値堅調で推移している中では経済的にも大きな負担がかかり、経営面への影響が出るため、農家の理解が得がたい。

〈補助金の視点別評価〉

【主管課評価・・・A=合致、B=概ね合致、C=課題あり】

算価				「価・・・A=合致、B=概ね合致、C=課題あり】
会	要件	,	評価	
② 社会的弱者の教法、地域的ハンディの克服等の必要性は高い。 ② 社会的弱者の教法、地域的ハンディの克服等の観点から、当面、補助を通じた行政の支援が必要であると認められる。 ② 社会的弱者の教法、地域的ハンディの克服等の観点から、当面、補助を通じた行政の支援が必要であると認められる。 ② 技術・成果を測るための適当な効果指標の設定がなされてもの。「一般、大変、展展性・海人等の効果ももり、平成 2 3 午度以前であると明確に認められる。 ② 補助の対象となる事業について、行政が適当であると明確に認められる。 ② 補助の対象となる事業について、行政が適当であると明確に認められる。 ② 補助の対象となる事業について、行政が適当であると明確に認められる。 ② 補助の対象となる事業について、行政が適当であると明確に認められる。 ② 補助を受ける団体を欠く水準となっていない。 父付要姻の補助基準) はついて、会り機の補助基準 はついて、自助勢力がみられるなど、明らかに 半水断・固定的な補助にはならないと見込まれる。 ③ 計画を受ける団体を欠く水準となって、 「大変、展展性・海人等の効果もあり、平成 2 3 午度の立が縮小してきている。	益	等の活動が、直接又は間接に、不特定多数の市 民の福祉の向上及び利益の増進に寄与してい	Α	域の全畜産農家が参加しており、甑地域の畜産業全体の利益に寄与している。
四体等に一定の補助を行うことが直ちに必要で 数と認められる。 ② 社会的調者の教宗、地域的ハンディの克服 等の製点から、当面、補助を通じた行政の支援 が必要であると認められる。 遠成しようとする目標・成果が市民ニーズに 有効 対しており、かつ、その目標・成果の速成に 同付で、適切な効果を単している。(その目 権実・成果を測るための適当な効果性構の設定が なされている。) ① 補助の対象となる事業について、行政が直当であると明確に認められる。 ② 補助率叉は補助額が、明確な根拠によって 核素されたものであり、かつ、社会経済情勢に 照らし、著しく妥当性を欠く体準とはなっていない。 (2) 付けでは、明確な根拠によって 核素されたものであり、かつ、社会経済情勢に 照らし、著しく妥当性を欠く体準とはなっていない。 (3) 補助を受ける団体等の活動光深等に照らし合わせて、自助努力があられるなと、明らかに性・単水横的・固定的な補助にはならないと見込まれる。 ④ 指動を受ける団体等の活動光深等に照らし合わせて、自動努力があられるなど、現場とかられる。 ④ 指動を受ける団体等の活動光深等に照らし合わせて、自動を対からいるなどと見込まれる。 ⑤ 補助を受ける団体等の活動が決撃に照らした。 (4) 当該補助事業以外にその団体が行う活動の 状況においても一定の公益性が認められる。 ⑥ 補助の対象となる経費が、明確には規定されるのの受付が最も実当な政策手段がないか、又は当該補助金等の交付が係を出て、当該的人なの、不の内容は補助目的に照らし、公表を充てるものとして、著しく妥当性を欠くものとはなっていない。 ⑥ 補助の対象となる経費が、明確に規定されており、妥当であると認められる。 ⑥ 補助の対象となる経費が、明確に規定をあると認められる。 ⑥ 補助の対象となる経費が、明確に規定をあると認められる。 ⑥ 補助の対象となる経費が、明確に規定をあるとはなのでいない。 ▼会のの本の方向性》 □見直しの上で継続 ⇒今後の方向性回拡大 口他の補助金と統合 ロ境は、対した企業を表して、例がは、対し、の表を充てるものとして、著しく妥当性を欠くものとはないか、又は当該補助の対象となる経費が、明確に対している。 ※例の改革の対した事業であるが、既地域の音を展示でなっていない。 「利助内容の改善し縮小 口格に必要性 ⇒ 口高い 口低い必要性 ⇒ 口高い 口動の している。 ○ は対しなが表しなのではないないないないないないないないないないないないないないないないないないない				
② 社会的弱者の教済、地域的ハンディの克服	要	団体等に一定の補助を行うことが直ちに必要で	Α	
自会型しており、かつ、その目標・成果の達成に (その) 標・成果を測るための適当な効果指標の設定が なされている。) ① 補助の対象となる事業について、行政が直		等の観点から、当面、補助を通じた行政の支援 が必要であると認められる。		
① 補助の対象となる事業について、行政が値当であると明確に認められる。 ② 補助率又は補助額が、明確な根拠によってに無らし、著しく妥当性を欠く水準とはなっていない。(交付要網の補助を準) ③	効	合致しており、かつ、その目標・成果の達成に 向けて、適切な効果を生じている。 (その目 標・成果を測るための適当な効果指標の設定が	Α	場の平均価格と比較すると約10万円の価格差があったが、優良雌牛導入等の効果もあり、平成23年度以
横算されたものであり、かつ、社会経済情勢に 照らし、著しく妥当性を欠く水準とはなっていない。 (交付要欄の補助基準) ③ 補助を受ける団体等の活動状況等に照らした 合		接実施するよりも、行政以外の者が行う方が適	Α	甑地域の畜産農家を対象とした補助である。
合わせて、自助努力がみられるなど、明らかに		積算されたものであり、かつ、社会経済情勢に 照らし、著しく妥当性を欠く水準とはなってい	Α	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	適格性及び妥当性	合わせて、自助努力がみられるなど、明らかに 半永続的・固定的な補助にはならないと見込ま	С	施設への子牛の航送料補助については、地域的ハンデ
おけんの日標・放来の達成と関係に同りて、当該補助金等の交付以外に適当な政策手段であると認められる。 ② 補助の対象となる経費が、明確に規定され、その内容は補助目的に照らし、公費を充てるものとして、著しく妥当性を欠くものとはなっていない。 ③ 補助のの見直し結果〉		状況においても一定の公益性が認められる。	A	参加し、畜産振興補助事業の事業主体として、各種事業に取組んでいる。
れ、その内容は補助目的に照らし、公費を充て るものとして、著しく妥当性を欠くものとは なっていない。 ● 現状のまま継続 □見直しの上で継続 □ 見直しの上で継続 □ 付か上 □廃止 ≪上記方向の理由≫ 甑地域に特化した事業であるが、甑地域の畜産産農家の経営状況、肉用牛情勢等を見極めながら現状のまま継続したい。 本社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		助金等の交付以外に適当な政策手段がないか、 又は当該補助金等の交付が最も妥当な政策手段	A	
 ≪今後の改革の方向性≫ ■現状のまま継続 □見直しの上で継続 ⇒今後の方向性□拡大 □他の補助金と統合 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪人記方向の理由≫ 厳地域に特化した事業であるが、甑地域の畜産農家の経営状況、肉用牛情勢等を見極めながら現状のまま継続したい。 ●現状のまま継続 □見直しの上で継続 ⇒今後の方向 □拡大 □他の補助金と統合 □精助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪さ後の改革の方向性≫ □現状のまま継続 □見直しの上で継続 □対けの補助会と統合 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪まとめ≫ 		れ、その内容は補助目的に照らし、公費を充て るものとして、著しく妥当性を欠くものとは	Α	
■現状のまま継続 □見直しの上で継続 ⇒今後の方向性□拡大 □他の補助金と統合 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪上記方向の理由≫ 甑地域に特化した事業であるが、甑地域の畜産農家の経営状況、肉用牛情勢等を見極めながら現状のまま継続したい。 ***********************************	〈補助			
□見直しの上で継続 ⇒今後の方向性□拡大 □他の補助金と統合 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪上記方向の理由≫ 甑地域に特化した事業であるが、甑地域の畜産農家の経営状況、肉用牛情勢等を見極めながら現状のまま継続したい。 ※改革・改善の内容とそれを実施していくため 必要性 有効性 「高い □低い ※今後の改革の方向性≫ □現状のまま継続 □見直しの上で継続 ⇒今後の方向 □拡大 □他の補助金と統合 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪まとめ≫				
→今後の方向性□拡大 □他の補助金と統合 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪上記方向の理由≫ 飯地域に特化した事業であるが、甑地域の畜産農家の経営状況、肉用牛情勢等を見極めながら現状のまま継続したい。				
□補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ②人と記方向の理由≫ ①現状のまま継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □対状のまま継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □村助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ②まとめ≫ ③格性・妥当性 ⇒ □高い □低い ○様の改革の方向性≫ □現状のまま継続 □見直しの上で継続 □見直しの上で継続 □対しているを □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ③まとめ≫ ○本・改善の内容とそれを実施しているため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とそれを実施しているため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とそれを実施しているため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容ともの ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・改善の内容とをれるまため ○本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本・公本				
内部 評価		⇒今後の方向性□拡大 □他の補助金と統合		
部	内			
価	部			≪今後の改革の方向性≫
 で				
1				
ら現状のまま継続したい。 □補助内容の改善 □縮小 □移管 □休止 □廃止 ≪改革・改善の内容とそれを実施していくため			価	⇒今後の方向 □拡大 □他の補助金と統合
結 果 □休止 □廃止 ≪改革・改善の内容とそれを実施していくため	给結		果	
≪改革・改善の内容とそれを実施していくため	禾			
		≪ 改革・改善の内窓レそれを実施していくため		<i>≪まとめ≫</i>

こしき地域生産農家支援事業補助金交付要領

(趣旨)

第1条 この要領は、薩摩川内市補助金等交付規則(平成16年薩摩川内市規則第67号。以下「規則」という。)第4条の規定に基づき、及び薩摩川内市補助金等基本条例(平成18年薩摩川内市条例第40号。以下「条例」という。)を実施するため、薩摩川内市農林水産部関係補助金等交付要綱(平成19年薩摩川内市告示第100号)第2条の表に掲げるこしき地域生産農家支援事業補助金に関し必要な事項を定めるものとする。

(補助事業等の要件)

- 第2条 補助金は、農業者の組織する団体に対して交付する。
- 2 こしき地域生産農家支援事業補助金に係る補助事業等は、甑地域における肉用牛経 営の課題を解決し、肉用牛農家の経営安定と畜産振興を推進するために行うものであ る。

(補助金の額)

第3条 こしき地域生産農家支援事業補助金の額は、予算で定める額以内とする。

(補助対象経費)

- 第4条 こしき地域生産農家支援事業補助金事業は次のいずれかに該当する場合にはこれを交付する。
 - (1) 優良牛導入(繁殖牛更新)
 - (2) 子牛預かり施設航送料
 - (3) 子牛セリ市支援
 - (4) その他必要と認められる経費

(交付の申請)

第5条 こしき地域生産農家支援事業補助金の交付の申請に係る規則第5条の市長が別 に指定する日は、当該事業を実施する日までとする。

(交付の基準)

- 第6条 こしき地域生産農家支援事業補助金の交付の決定は、次の各号のいずれかに該当する場合には、これを行わない。
 - (1) 当該補助事業等が第2条の要件を満たさない場合
 - (2) 前号に掲げる場合のほか、当該申請者にこしき地域生産農家支援事業補助金を交付することが適当でないと認められる場合

(実績報告)

第7条 こしき地域生産農家支援事業補助金の実績報告に係る規則第15条第3号の市長が必要と認める書類は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 当該補助事業者等が自ら行った評価に関する書類
- (2) 当該補助事業等に係る納入確認写真
- (3) 当該補助事業等に係る領収書又は請求書
- (4) 前3号に掲げるもののほか特に必要であると認められる書類

(効果の測定)

- 第8条 こしき地域生産農家支援事業補助金の効果(条例第4条第2項第1号の効果をいう。)は、本市甑地域における次の各号に掲げる指標を用いて測定するものとする。
 - (1) 繁殖牛更新率
 - (2) 本土地域との航走料に係る是正率
 - (3) 子牛セリ市価格

(補助事業者等の責務)

第9条 こしき地域生産農家支援事業補助金の交付を受けた補助事業者等は、本市が実施する畜産振興施策に積極的に協力しようと努めるものとする。 (その他)

第10条 この要領に定めるもののほか、必要な事項は、農林水産部長が別に定める。 附 則

- 1 この要領は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 こしき地域生産農家支援事業補助金に係る条例第4条第1項の規定による見直しに ついては、平成25年度において検討を行い、その結果に基づいて、平成26年度に おいて所要の措置を講ずるものとする。

附則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成28年4月1日から施行する。